

# まち・むら交流

姉妹町村

雄大な天塩川の流れ



北海道●中川町

昭和56(1981)年6月、中川村と北海道中川町は自治体名が同名であるよしみから、姉妹町村の盟約を結び、相互の発展に寄与することを誓いました。これを契機に両町村は産業・教育・文化などの分野で、息の長い交流が続いています。



パンケ山は中川町のシンボル

ふれあい  
協定

名古屋市●天白区

名古屋市のベッドタウン天白区との都市・農村交流は、昭和63(1988)年以来、同区で盛んなレクパレー(6人制レクリエーションパレーボール)をとし進められてきました。村発足40周年の平成10(1998)年に「ふれあい協定」を締結し、地道な交流が続いています。



天白祭りに中川バンドが参加



役場庁舎

## 簡素で効率的な行財政運営

地方自治にとってこれからの時代は、限られた財源の中で優先的な事業を選択し、複雑多様化する行政課題に的確に対処する実効性が強く求められます。住民参加による協働の村づくりを力強く推進しながら、村では不断の行政改革を進め、簡素で柔軟な行政組織の構築や職員の資質向上、意識改革などに努めています。また、計画的・効果的な財政運営に徹し、村民本位の行政サービスを提供していくために、財政基盤の強化に努めています。

現行の広域事業に加え、関係市町村と連携し広域的に処理することが効果的な事業については、広域化に向けた取り組みを図るなど合理的な行政を推進します。本村は下伊那地域と接しているため、経済・生活圏が飯田下伊那にも向いています。このような状況を考慮しながら、地域の一体的な発展をめざして、圏域を越えた周辺市町村との連携を進めていきます。

住民参加、協働といった新しい理念が求められる地方自治の時代に向けては、住民の意向をきめ細かく施策に反映するためにも、村民の代表である村議会の役割も今まで以上に重要です。



左から市瀬副市長、曾我村長、松村教育長



前原議長、桃沢副議長



村議会議員